



株式会社やまと

SDGs進捗レポート

弊社はSDGsの目標達成に向けた取組みを行っています



福岡県嘉麻市桑野の「梯橋」の保全業務（応急保全）に携わりました。

「桑野の梯橋」

発注者：嘉麻市教育委員会 生涯学習課 文化推進係

業務（工事）箇所：福岡県嘉麻市桑野地内

業務名：「桑野の梯橋」応急保全業務委託

受注金額：7,615,300円

工期：令和6年9月24日～令和7年3月24日

受注者：[株式会社尾上建設](#) 熊本県上益城郡山都町千滝222-1

一次下請：株式会社やまと（総合管理支援）

株式会社葵文化（岩盤修復・補強工事）

福岡県広域森林組合飯塚支所（伐採工事）

福富建設株式会社（仮設足場設置・解体）

業務（工事）内容：嘉麻市は、石橋の保存と将来の活用を目的としています。本業務（工事）は、「崩落の危機から救うための保全」であり、今回はあくまでも応急的な措置を講じるものとして発注された業務（工事）になります。

株式会社やまとの役割

業務：設計図書作成（設計図面作成・特記仕様書（案）・施工計画書（案））

工事：施工管理支援（工程管理・品質管理・機械安全管理・安全管理全般）

今回工事の概要

- ①周辺木の伐採と積み出し
- ②資材運搬用仮設道路の設置
- ③遠賀川左岸の岩盤補強
- ④石橋基部の岩盤補強

（位置図）



※地図をクリックするとグーグルマップが開きます。
この画面へ戻る時は、ブラウザ左上の←をクリックして下さい。

1. 石橋の応急保全業務のSDGs関連性

石橋の応急保全業務（設計・積算・施工）は、主に橋の保護と保全を目的としているため、以下のSDGs目標に関連していると考えられます。

SDG 9: 「産業と技術革新の基盤を作ろう」

石橋の保全業務に関する設計や施工は、インフラの強化に寄与します。この橋が観光地として整備される計画があるため、持続可能なインフラの開発や維持管理に関わる重要な要素となります。新しい技術や方法を導入し、将来的に嘉麻市の観光地化に貢献する可能性があるため、インフラの発展に関連しています。

SDG 11: 「住み続けられるまちづくりを」

石橋が保全されることにより、地域の交通・観光施設が安全に利用できるようになります。観光地化される計画もあることから、地域の住民と観光客にとって快適で安全な空間を提供するための取り組みが進むことが予想されます。

SDG 15: 「陸の豊かさを守ろう」

石橋が周辺の自然環境と調和する形で整備される場合、自然環境の保護にも関連します。地域の環境への影響を最小限に抑えることを考慮した保全活動は、陸地の豊かさを守る一助となります。

2. 弊社の事業内容とSDGs関連性

次に、会社の事業内容がどのSDGs目標に関連するかを見ていきます。

事業項目1. コンサルティング事業

関連SDGs: **SDG 8（働きがいも経済成長も）**、**SDG 9（産業と技術革新の基盤を作ろう）** コンサルティング事業は、企業や地方自治体に対する経済成長や持続可能な開発に向けた支援を行うことから、経済的な発展を促進します。

事業項目-2. 施設管理事業

関連SDGs: **SDG 11（住み続けられるまちづくりを）** 施設の管理業務は、住民の生活環境を守り、公共施設やインフラを持続的に管理することで、住みやすい街づくりを支援します。

事業項目-4. 商業関連事業

関連SDGs: **SDG 8（働きがいも経済成長も）**、**SDG 12（つくる責任 使う責任）** 商業活動は、経済の発展に貢献し、持続可能な消費と生産の促進に役立ちます。

事業項目-5. 地域活性事業

関連SDGs: **SDG 8（働きがいも経済成長も）**、**SDG 11（住み続けられるまちづくりを）** 地域の活性化を通じて経済成長を促進し、地域社会の発展に貢献します。

石橋の応急保全業務は、**SDG 9（産業と技術革新の基盤を作ろう）**、**SDG 11（住み続けられるまちづくりを）**、**SDG 15（陸の豊かさを守ろう）**に関連し、地域社会にとって重要なインフラ保全に寄与するため、SDGs目標達成に貢献します。

※県外の活動でも「地域活性」に貢献できる理由

地域活性事業とは、必ずしも弊社の拠点がある地域だけを対象とするものではなく、業務（工事）を行う地域において活性化に寄与することで、以下の理由でその地域に貢献することができます。

1. 地元企業や職人との連携・・・雇用創出や技術継承につながる。
2. 地域経済の活性化・・・地元での消費（宿泊・飲食など）で地域経済を支援。
3. 文化財の保全が将来的に観光資源となる。・・・長期的な地域振興に寄与する。

●そもそも「梯（かけはし）橋」とは？

以下、嘉麻市 クラウドファンディング プロジェクト本文より引用

それは高校生の情熱からはじまったー。

福岡県の中央部を南北に縦断する遠賀川の上流域、源流地点に近い山あいの谷間にひっそりと架かる石橋。

元々は地図にも載っていない、知る人ぞ知る石橋でしたが、福岡県立朝倉高校史学部による熱心な調査活動がきっかけとなり、その歴史的価値が評価され、令和5年5月に「桑野くわのの梯橋 かけはしばし」という名称で、嘉麻市 かましの指定有形文化財となりました。

(中略)

「幻の石橋」を、落橋の危機から救いたい。

そんな「幻の石橋」が今、落橋の危機に瀕しています。150年以上の時を経て、橋を支えている川岸の岩盤は脆くなり、その合間に草木が根を張り、今や橋としての使用はおろか、近くからの見学も制限せざるを得ない状況です。

(中略)

現地に残るリブアーチ型石橋として、日本本土では類を見ないこの文化遺産を未来に伝えるため、そして将来、多くの方が現地でご覧いただけるように、皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。

「梯橋」見上げ写真と川岸の岩盤状況

(撮影：2020/10/18)



右岸側 起拱部



拱頂部



左岸側起拱部



下流側より遠景



下流側より近景



左岸側起拱部

高校生の情熱からはじまった 「幻の石橋」の物語

遠賀川上流に位置する嘉麻市桑野地区の国道下にひっそりと架かる石橋があります。令和5年5月に「桑野 くわの の梯橋 かけはしばし」の名称で嘉麻市の指定文化財になりました。この石橋は、石橋愛好家の間で珍しい構造の石橋として知られていたものの、地図にも載っていない、知る人ぞ知る石橋でした。

ところが、2019年より開始された福岡県立朝倉高校史学部による調査活動結果、明治時代初期に編纂された『福岡県地理全誌』に「梯」として橋の存在の記録が残されていることが分かりました。

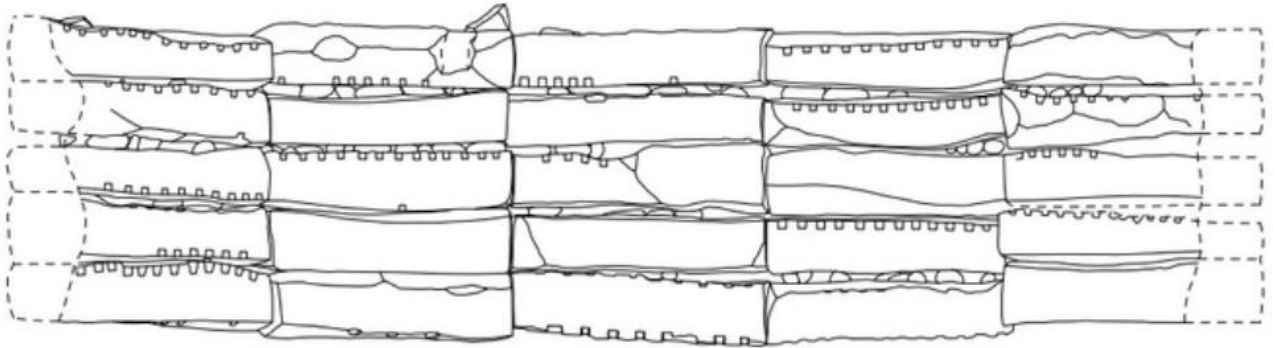
さらには橋の構造そのものの希少性が明らかになり、マスコミで紹介されたことで「幻の石橋」として一般にも広く知られるようになりました。

なぜ「幻の石橋」なのか？

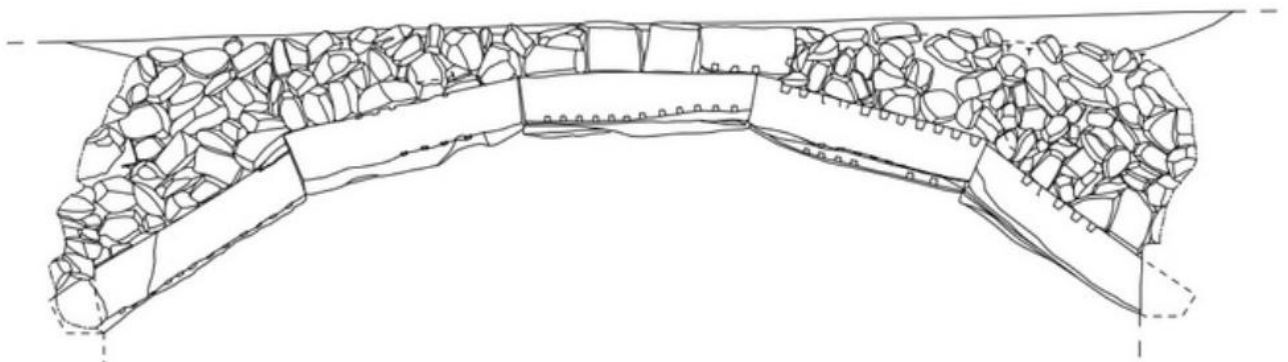
ブロック状に加工した石材を積み上げた日本のアーチ型石橋は「眼鏡橋」とも呼ばれ、江戸時代に中国から長崎に伝わったのが始まりと言われています。九州はアーチ型石橋が集中する地域ですが、現存するものは沖縄県を除いたほとんどが、渡る方向に対して横に石材を組む「ブロックアーチ型」の石橋です。

一方、この石橋は柱状の輪石を渡る方向に対して縦に組みあげる「リブアーチ型」と呼ばれる構造をもっています。

天井面



上流側立面



九州本土で知られている最古のリブアーチ型石橋は、熊本県の日渡洞口橋（1774年）ですが、現在は公園に移設されています。

「遠賀川上流域のリブアーチ型橋群の中で、唯一現存する掛橋の石橋は、桑野地区の有する地理的、物質的条件が生み出した文化遺産であり、その独自性において県内でも稀有で非常に価値のある土木遺産であると言える。」と調査に参加いただいた熊本大学名誉教授の山尾敏孝先生からも評価をいただき、嘉麻市のリブアーチ型石橋は、現地に使用当時の姿のままで残る「**幻の石橋**」と呼ばれるようになりました。

（中略）

幻の石橋を 落橋の危機から救いたい

「桑野の梯橋」は建築からおよそ150年以上という年月を経て経年劣化が進んでいる上に、近年の集中豪雨による洪水の影響で川岸の岩盤が削られ、今や落橋の危機に晒されています。

上流側の壁石や左岸側のアーチ基部付近の岩盤が広く剥離するなど、見学者の安全確保が困難であることから、現在は立ち入りを禁止している状況です。

橋の本体部分に大きな損傷はないものの、近年頻発している豪雨災害や地震等の影響で、このままでは岩盤の崩落が広がる恐れがあると予想されます。また、樹木が成長すると根が大きく伸びて、脆くなった岩盤の損傷を拡大する要因になるため、周辺の樹木の伐採も必要です。

早急な応急保全措置が求められる中、嘉麻市教育委員会では「歴史・文化遺産を活かした文化観光まちづくり」の第一歩として、石橋の保全に取り組むことを決断いたしました。

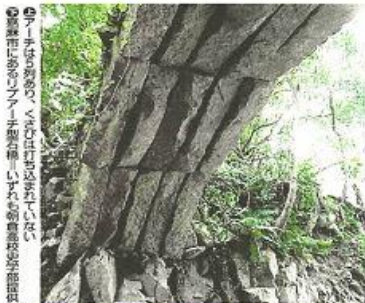
取り上げたのは嘉麻市桑野地区の国道下の遠賀川に架かるアーチ型石橋。高河原は、木々に覆われ周囲にもないため、地でも知られていない。8月、顧問の山尾敏孝教授と嘉麻市教育委員会が、早急な応急保全措置が求められる中、嘉麻市教育委員会では「歴史・文化遺産を活かした文化観光まちづくり」の第一歩として、石橋の保全に取り組むことを決断いたしました。



中原透也さん

朝倉高史学部の一人の史学部員

朝倉高たった一人の史学部員



「貴重な土木遺構、知ってほしい」

嘉麻「幻の石橋」に光

見事な土木遺産 保存につなげたい

【2018年】

【2020年】

一人きりの部活 ゼンリン動かす

朝倉高史学部

一人きりの部活 ゼンリン動かす

「貴重な土木遺構、知ってほしい」

ゼンリン住宅地図に載った石橋
＝朝倉高校史学部提供



毎日新聞(2020/10/25付)

高校の史学部が“幻の石橋”とPRした「桑野の梯橋」 市文化財に

社会 | 暮らし・学び・医療 | 学び・教育・入試 | 速報 | 福岡
毎日新聞 | 2023/6/6 20:30 (最終更新 6/6 20:30) | 有料記事 748文字



福岡県嘉麻市の指定有形文化財になったリブアーチ式の「桑野の梯橋」。現在、立ち入りは禁止されている

福岡県嘉麻市桑野にある全国でも希少なリブアーチ式の石橋「桑野の梯(かけはし)橋」が市指定有形文化財になった。県立朝倉高校(朝倉市)の史学部が調査研究し「幻の石橋」として文化財指定をアピールしたことで存在が広まった経緯があり、史学部は「4年前からの念願がかなった」と喜んでいる。

史学部は2019年6月に石橋の調査を始め

た。全長6・7メートル、幅1・8メートル。細長い石材を渡る方向に縦に組むリブアーチ式で築約150年とみられ、名称は「梯」であることなどを研究発表会で明らかにし、動画投稿サイト「YouTube(フーチューブ)」上で発信した。

毎日新聞(2023/6/6付)

幻の石橋 Part.2

幕末の嘉麻軍と石橋建造の背景

■ 応急保全工事施工状況



左岸岩盤補強: アンカーピン挿入



リブアーチ起拱部補強: 補強筋配筋状況



リブアーチ起拱部補強: 擬石充填



応急保全措置完了

以下、歴史・文化遺産を活かした文化観光まちづくり
幻の石橋保存プロジェクト終了報告より

嘉麻市教育委員会生涯学習課

「幻の石橋」保存プロジェクト終了報告

この度は、私たちのプロジェクトに多くのご支援をたまわり、心から感謝申し上げます。多くの皆さまのご支援のおかげで、石橋の応急保全措置も無事に終了し、費用の大半を寄付金でまかなうことができました。

近年、甚大な自然災害が多発する中、150年以上持ち堪えてきた石橋の応急補強ができたことは、私たちプロジェクトチームにとって望外の喜びであり、地元の皆さま、そして石橋の調査に関わった朝倉高校史学部をはじめとする関係者の皆さまにとっても大きな安心材料となりました。

今後は、石橋の保存活用計画をつくり、全国でも珍しいこのリブアーチ型石橋がもっと身近な存在となるように、また次の世代へと引き継いでいけるように保存と活用の両立を目指して地元の皆さまと一緒に取り組んでまいりたいと思います。

どうかこれからも「幻の石橋」を温かく見守っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年3月吉日

「幻の石橋」保存プロジェクトチーム一同様